

会 議 録

1 会議名

令和8年度第3回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

・部会のテーマについて

3 開催日時

令和8年6月23日（火）午後6時から午後7時まで

4 開催場所

板倉区総合事務所 201・202会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

・委 員：小林会長、植木副会長、秋山委員、新井委員、小川委員、釜田委員、小林委員、清水委員、庄山委員、中澤委員、深石委員、南委員、山本委員

・事務局：板倉区総合事務所 大島所長、小林次長、高橋次長、大堀建設グループ長、佐藤産業グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、古川教育・文化グループ長、千葉地域振興班長、宮崎主事

8 発言の内容

【議題：自主的な審議 部会のテーマについて】

（部会ごとに取組むテーマを協議）

■ A部会の協議概要

<テーマ1：ジビエの活用について>

- ・ 解体施設の許可、家畜保健衛生所等への手続き、ブタ熱対策（PCR 検査必須）など、捕獲から販売まで多くの工程と厳しい規制があり、実現のハードルは非常に高い。
- ・ まずは地元住民への理解促進を目的に安価で提供し、ジビエの美味しさを広めた上で「地産地消」として展開する方針。販路自体は比較的柔軟に検討可能。
- ・ 関係者（猟友会・事業者）へのヒアリングを優先し、課題把握を進めるとともに、試食会の開催など実体験を通じて理解を深め、議論を具体化していく必要がある。

＜テーマ2：特産品の販売について＞

- ・ 高齢化により特産品の作り手が減少しており、今後これまでのように特産品が維持、供給できなくなる懸念がある。
- ・ イベント出店には早朝からの準備など大きな労力が必要で、労力に見合わない面があり、参加継続が難しくなっている。
- ・ 既存団体に頼るのではなく、若い世代による新しいグループの参入、育成を進めることが現実的な解決策として提案されている。

■ B部会の協議概要

- ・ B部会に与えられた「移住」「互助」「情報発信」からテーマを探る。
- ・ 人口減少により、地域コミュニティの希薄化が課題である。地域コミュニティの強化、互助の強化が必要である。
- ・ 「互助」は、防災面でも大切なことある。「互助」＝つながりがあることは良いこと。安心できる地域ということである。
- ・ 「互助」につながる「あいさつ運動」や「こども食堂」「お茶の間サロン」などができたらよいと思う。
- ・ 多くの委員の共通する意見として「互助」を部会のテーマとする。
- ・ 「互助」につながる取組として、「あいさつ運動」や「こども食堂」「お茶の間サロン」などの意見が出されたが、事務局から好事例を調査していた

だくこととする。

- ・ その事例を基に、次回の部会では、どういうスケジュールで進めるべきか話し合いたい。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255－78－2141（内線123）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。